



ALCE第91回例会 コンヴィヴィアリティ × ことば

古屋憲章

「言葉の再発見」(イリイチ、2015/1973)

仕事をする

仕事をもつ

私は学びたい

私は教育を受けたい

私は歩きたい

私は輸送機関を必要とする

私が自律的に行為する

私が「産業主義的な道具」を所有／消費／操作する

ことばによる人間のシステムへの従属の内面化

個別性・自律性の阻害

ウヴェ・ペルクゼン

糟谷啓介・訳

プラスチック・ワード

歴史を喪失したことばの蔓延



Uwe Perksen, Plastic Words, The Tyranny of a Modular Language

藤原書店



9784894345942



1920036028009

ISBN978-4-89434-594-2

C0036 ¥2800E

定価 本体 2,800 円+税

〈プラスチック・ワード〉とは？

いま国境を越えて蔓延し、日常言語を侵しつつある、ある種のことばの集まり。

科学言語のように歴史を欠き、権威はもとっているが内容は空虚、組み合わせが容易で文章を自在に生みだすが、具体的文脈のなかで意味を特定できない。

経済、科学、行政などの領域から浸透し、メディアや政治家のことば、われわれの日常会話までを静かに乗っ取りはじめている。

〈例〉インフォメーション・サービス・近代化・発展・問題・価値・機能・プロセス・ニーズ……



「プラスチック・ワード」 (ペルクゼン、2007/1988)

- F 一般的作用

19 プラスチック・ワードは、その無限の一般性によって空白を埋め、それまでには存在しなかったニーズを満足させるような印象を生みだす。言い換えれば、プラスチック・ワードは **ニーズを呼び起こす**。プラスチック・ワードがあらゆる領域を共通分母にまで還元すると、未来に向けた命令的指示が発せられる。プラスチック・ワードは、**事物の方がことばに合わせるべきであることを要求する**。そして、**つねに何か欠けていることに注意を向かわせる**。(p.210)

事例：グローバル人材

- グローバルラーニングセンター
- グローバルエキスパートポイント

グローバル
人材

有用／無用
(役に立つ人間／
役に立たない人間)

自己責任
(負けたら、自分のせい)

新自由主義(世界的な自由競争)

「言葉の再発見」

- 産業主義的な道具の操作規則は日常の言葉のなかに侵入し、人間の詩的自己証明を辛うじて許される片隅での抗議にまでおしきげている。その結果生じる人間の産業主義を逆転するには、新しい意識水準とともに、**言葉の自立共生的（コンヴィヴィアル）な働き**をとり戻すしかない。共同社会の形成に参加する各人の権利を要求し主張する一国民によって使われる言葉は、**人々と工学的に設計された技術的手段の関係を明らかにするいわば二次的な道具**となる。（イリイチ、p.202）
-

問いへの応答

- 今、私たちに何ができるのか？
- ことばを通じて、どのように社会とつながり、現在の状況を変えていけるのか。



- 共生社会をめざす日本語教師として、ことばが帯びる政治性に敏感になるとともに、ことばを批判的に再解釈する。
- ことばを批判的に再解釈すること自体を日本語教育実践とする。
cf. 「共生社会におけることばの教育」の実践としての「本質観取」
(稲垣、2022)



個別性・自律性が尊重される社会へ

参考文献

- 稲垣みどり(2022)「共生社会におけることばの教育」の実践としての「本質観取」『共生社会のためのことばの教育—自由・幸福・対話・市民性—』第2章(pp.41-71)明石書店
 - イリイチ, イヴァン(2015)『コンヴィヴィアリティのための道具』(渡辺京二、渡辺梨佐 訳)筑摩書房(原著は1973)
 - ペルクゼン, ウヴェ(2007)『プラスチック・ワード』—歴史を喪失したことばの蔓延—(糟谷啓介 訳)藤原書店(原著は1988)
-